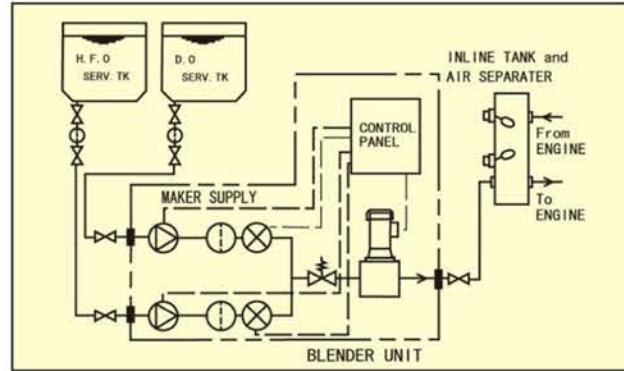


HE型ブレンダー HE Type Blender

用途 1. 粘度調整、硫黄分調整。
2. 鉱油、動植物油、バイオ燃料などの混合。

目的 1. 省エネ **Use for:** 1, adjust Viscosity, Sulfur content.
2. 公害対策 **Purpose:** 2, mix. mineral oil, plant, animal, Bio.
1, Energy-Save, 2, For Environment.



HE型標準機種選定表 Standard type

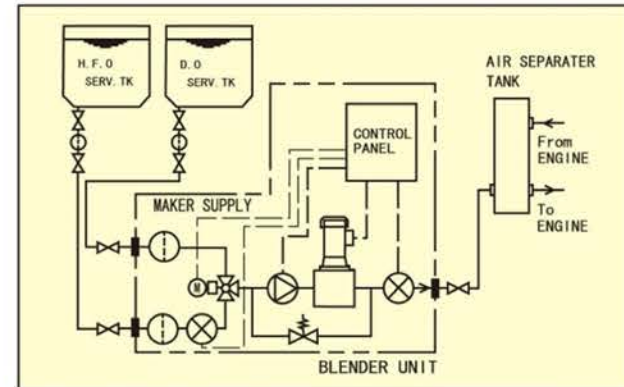
項目	型式	HE-0.45/0.45	HE-0.8/0.8	HE-1.5/1.5
混合油最大流量 (L/h) MAX OUTLET FLOW		940	1400	3000
モーター容量 (kW) MOTOR CAPACITY		0.4	0.4	0.75
重量 (kg) WEIGHT		330	330	340

●上記標準機種以外の製作も可能です。お問い合わせをお願いいたします。
Product in reply to need besides standard.

OF型ブレンダー OF Type Blender

**用途・目的はHE型と同じです、
特徴は全自動仕様です。**

Its Use, Purpose are same as HE Type
Particular is of Full Automatic.



OF型標準機種選定表 Standard type

項目	型式	OF-800	OF-1000	OF-2000
混合油最大流量 (L/h) MAX OUTLET FLOW		800	1200	2200
モーター容量 (kW) MOTOR CAPACITY		0.4	0.75	1.5
重量 (kg) WEIGHT		170	170	170

●上記標準機種以外の製作も可能です。お問い合わせをお願いいたします。
Product in reply to need besides standard.

MGO 対策ブレンダー



OFタイプ



株式会社コンヒラ
CONHIRA CO., LTD.

本社/愛媛県今治市北高下町2丁目2番23号
〒794-0812 TEL (0898) 23-6660(代) FAX (0898) 23-6698
神戸支社/神戸市中央区東町123 貿易ビル6F
〒650-0031 TEL (078) 332-2130 FAX (078) 321-2190
広島営業所/広島市東区光町1丁目11番24号 日商岩井光町ハイツ307
〒732-0052 TEL (082) 263-7741 FAX (082) 263-3404
Head Office: 2-2-23, KITAKOUGE-CHO, IMABARI EHIME, Japan
(〒794-0812) Tel: +898-23-6660 Fax: +898-23-6698
KOBE Office: (BOEKI-BUILD., 6F) 123 HIGASHI MACHI, CHUO-KU, KOBE
(〒650-0031) Tel: +78-332-2130 Fax: +78-321-2190
HIROSHIMA Office: 1-11-24 (NISHOIWAI HIKARIMACHI HAITSU 37)
HIKARI MACHI, HIGASHI KU, HIROSHIMA
(〒732-0052) Tel: +82-263-7741 Fax: +82-263-3404

株式会社コンヒラ
CONHIRA CO., LTD.

<Home-page> <http://www.conhira.com/>
<E-mail> info@conhira.com

MGO と OF 型ブレンダー

900万の予算が300万になった！誠に愉快！！

1：船舶向け MGO 採用の背景

船舶にて発生の大気汚染対策として 2008 年海洋環境保護委員会（MEPC58）において規定され、特定指定海域にて使用できる機関燃料油がマリンガスオイル（MGO）です。

2：ISO8217 [2010] に定義された燃料油の性状

Grade	MGO		MDO
	DMX	DMA	DMB
硫黄分%(m / m)	max.2.00	max.2.00	max.2.00
動粘度cSt@40で	min.1.40 max.5.50	min.1.50 max.6.00	max.11.0
引火点℃	min.43	min.60	min.60

3：現状の船舶期間の排気ガス特定海域場所

バルチック、北海海域、アメリカ海域

図1 SOx排出規制海域エリア



4：MDO、MGO の供給可能港

MDO が供給出来ない港が増加中で MGO のみの供給が増加（ただし高粘度重油は供給可能）

5：MGO 使用を必要としない海域は非常に多い（この海域では MDO が望ましい）

現状 MDO を前提に建造した船舶が多いため、MGO を給油すれば高価格の設備対策費が発生します。

6：船舶機関に MGO 使用の対策

6-1：FO 供給ポンプ、FO 循環ポンプ及び機関付 FO 噴射ポンプの低粘度燃料（MGO）変更工事

6-2：冷却装置を増設し、冷却により MGO の粘度を上げる方法

※いずれも、1 千万前後の費用が発生する

経済的第三の対策

1：MDO の入手が出来ない港にて MGO を必要としない海域での対策

OF ブレンダーを採用し、MGO と高粘度重油（C 重油）をブレンダーで適正な粘度にて MDO セットリングタンクに移送する方法。

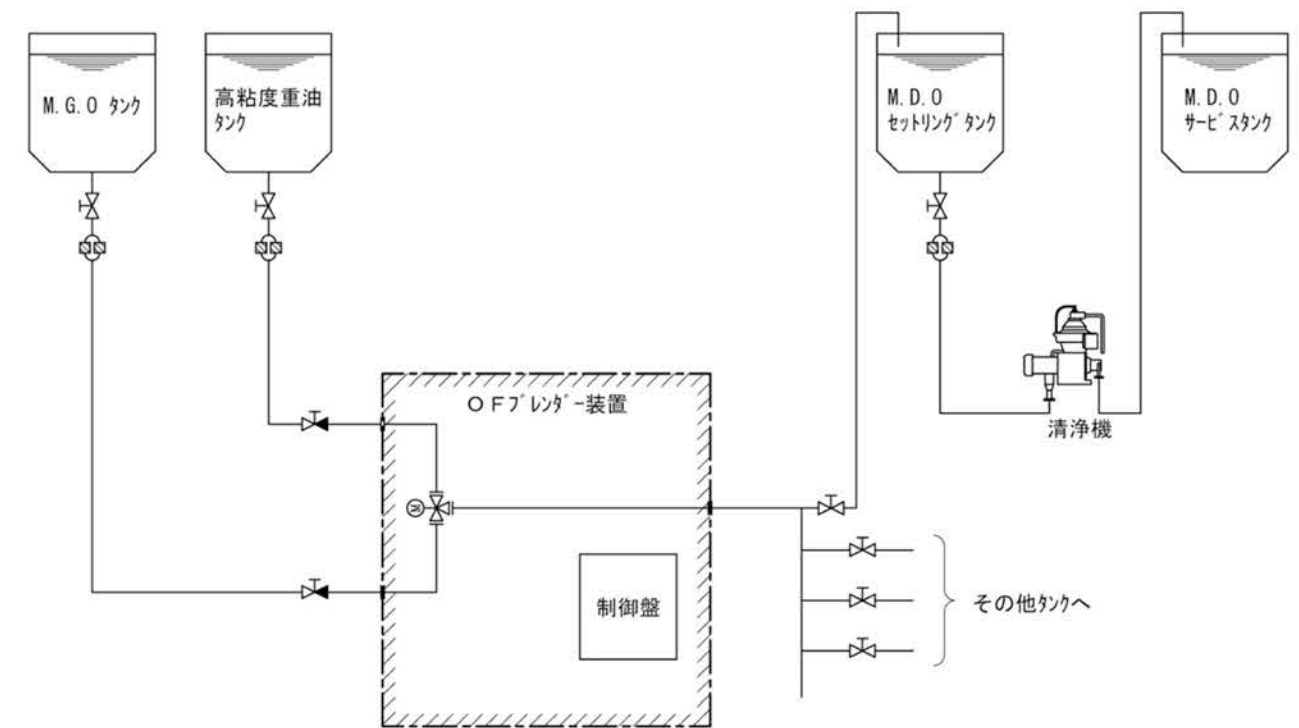
※内航船及び近海航海船は本装置の対象となります。

2：特質

2-1：前条 1,2 項に比較して格安にて設備ができる

2-2：粘度は任意に選べるので現実的です。加熱なしにて補機関にて使用の適正粘度 cSt15 前後の任意の粘度を選定できるので経済的運転が可能です。

3：MGO 対策フローチャート実績例（就航中の船舶設置例）



【利点】

従来のMDOタンクには機関の適正な粘度にブレンダーする為、使用時の粘度cSt15内外で安価な高粘度油を多めに混合できるので経済的。